

2024年4月25日
公益財団法人イオン環境財団

4月27日長沙県「松雅湖植樹」活動を実施

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田 元也 イオン株式会社 取締役代表執行役会長、以下当財団）は、4月27日（土）、中華人民共和国湖南省長沙市長沙県の松雅湖湿地公園において「松雅湖植樹」活動を実施します。

当財団は、同国において、環境課題に取り組むとともに、両国のさらなる国際協力を促進するため1993年より「日中環境国際シンポジウム」を開催し、それを契機に1998年から「万里の長城・森の再生プロジェクト」を開始、累計100万本の植樹を実施しています。それ以外にも同国各地で植樹活動を実施し、また環境教育機材として、小中学校に太陽光発電パネルの寄贈など様々な環境活動を行っています。

本植樹地は、長沙県北部にある松雅湖（面積3.65km²）に隣接し、かつては、湖と隣接する湿地を埋め立てて畑や団地等に開発され、その影響で湿地本来の貯水の機能が弱まり、洪水等の自然災害が多発する状態が続いていました。

21世紀に入り、天然湿地の保護など本来の湖の機能を取り戻す活動が行われ、湿地、湖の環境が回復しつつあります。今回の植樹地「松雅湖湿地公園」は、2010年～2016年に湖畔の天然湿地に整備された公園で、湖周辺の水源涵養機能をさらに高めるとともに、末永く親しまれる公園として地元ボランティアの皆さまとともに地元の樹種32種、3,000本を植樹いたします。

今後も両国におけるより一層の友好交流促進に貢献するとともに、いのちあふれる美しい地球を次代に引き継ぐため、植樹をはじめとする環境活動に積極的に取り組んでまいります。

記

| | | | |
|------|--|------------|--------|
| 日時 | 2024年4月27日（土）8:30～11:00 | | |
| 植樹地 | 湖南省長沙市長沙県 松雅湖湿地公園 | | |
| 樹種 | 32樹種 （イヌマキ・モモ・スモモ・ベニバナトキワマンサク・トベラ・ツツジ・ナンテンチク・ツゲ・サクラ等） | | |
| 本数 | 3,000本 | | |
| 参加者 | 600名 | | |
| 主催 | 長沙県人民政府 公益財団法人イオン環境財団 | | |
| 協力 | 松雅湖生態信条発展中心 イオンモール長沙 イオン湖南 イオンディライト武漢 | | |
| 出席者 | 湖南省長沙市長沙県人民政府 | 党委副書記 県長 | 陳 永高 様 |
| （予定） | 湖南省長沙市長沙県人民代表大会常務委員会 | 党員幹部 副主任 | 曹 偉興 様 |
| | 湖南省人民対外友好協会 | 専職副会長 | 王 麗文 様 |
| | イオン中国 | 副総裁 | 猪原 弘行 |
| | イオンモール中国 | 董事総経理 | 橋本 達也 |
| | イオン湖南 | 総経理 | 小路 和宏 |
| | イオンディライト株式会社 | 取締役兼専務執行役員 | 宮前 吾郎 |
| | イオンディライト武漢 | 董事長兼総経理 | 関 竹娟 |
| | 公益財団法人イオン環境財団 | 事務局次長 | 西原 謙策 |

以上

ご参考

【公益財団法人イオン環境財団】

「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと、岡田卓也（イオン株式会社 名誉会長相談役）により、日本で初めて、地球環境をテーマにした企業単独の財団法人として、1990年に設立されました。

以来、多様なステークホルダーの皆さまとともに「植樹」「助成」「環境教育・パートナーシップ」「顕彰」の4つの事業活動を中心に、活動に取り組んでいます。今後は持続可能な地域の実現を目的に、新たな里山づくりにも取り組みます。（当財団ホームページ <http://www.aeon.info/ef/>）

【これまで当財団の中国における主な取組み】

《イオンの森づくり》

■ 1998年～2010年「万里の長城・森の再生プロジェクト」

「日中環境国際シンポジウム」での提案を契機に、1998年から「万里の長城・森の再生プロジェクト」を開始しました。継続的な植樹活動を通じて累計約15,000名の日中ボランティアの皆さまのご協力のもと、2010年には植樹本数が100万本を超えました。その後、2013年には育樹活動として、木々のメンテナンスなどを行いました。



（2010年 万里の長城「八達嶺」）

■ 2005年～2007年「青島市ラオ山ダム植樹」

青島市にあるラオ山ダムは、黄河から水を引き、長く同市の水源として利用されていました。同ダムがその役割を終えたことに伴い、青島市政府からの要請を受け、同ダムを市民の憩いの場とするため、青島市城陽区人民政府とともに植樹を行いました。3,493名の日中両国のボランティアの皆さまが、クロマツ、マルバハゼ、カエデ等30,000本の苗木を植えました。

■ 2007年、2022年「香港植樹」

植樹地である大欖郊野公園（タイラムカントリーパーク）は、54km²の敷地内に7つの貯水池を持ち、九龍半島への水の供給源として機能しています。公園にはトレイルコースやキャンプ場もあり、市民に親しまれています。

2006年の山火事により、木々が焼失した同公園において、香港政府による修復プログラムが行われていることを受け、2007年6月に、近隣の住民や学生、日本からのボランティアの皆さま合わせて400名とともに2万本の苗木を植えました。



（2007年 香港植樹）

また、同公園が長年の植林により豊かな森林地帯となり、野生動物の生息域となっていますが、外来樹種が在来樹種の成長を妨げ、野生動物にも影響を与えているため、森林の再生活動が行われています。

2022年8月7日に、NGO団体の香港地球之友（Friends of the Earth (HK) Charity Limited）と生物多様性の保全や生態系サービスなど自然が持つ価値の向上を目的に、地域ボランティアの皆さま150名とともに、地域に自生する12種1,500本の植樹を行いました。



（2022年 香港植樹）

■ 2008～2011年「山東省烟台市植樹」「山東省威海市植樹」

2008年7月、烟台市政府から要請を受け、近郊の辛安河の水源涵養林の育成を目指して植樹を行いました。日中両国のボランティアの皆さま2,519名が25,000本を植えるとともに、交流により日中友好を深めました。また同様に威海市において、日中両国のボランティアの皆さま1,400名が参加し、12,000本を植えました。



(2008年 山東省烟台市)

■ 2014年「蘇州市植樹」

蘇州市が擁する中国第三の大きさを誇る淡水湖「太湖」周辺は、護岸工事などの開発により環境破壊が進んでいました。同市による生態系の修復および環境再生の取り組みが行われ、当財団はその計画に賛同し、700名のボランティアの皆さまと湖畔の埋め立て地に30,000本の植樹を行いました。東山鎮固有種であり他の地域では見られない柑橘系樹の植樹や育樹を実施し、地域の環境意識の向上を願うとともに、東山鎮の古い町並みや文化を保護し、次世代へ伝えます。



(2014年 蘇州市)

■ 2016年「北京市密雲植樹」

密雲は北京市北東部に位置しており、同市で利用する水量のうち3分の2を供給する、華北地方最大の密雲ダムを有しています。同ダムの周辺住民ならびに北京市民の水資源を確保するため、日中両国のボランティア800名の皆さまとともに、地域に自生する7,500本の苗木を植えました。



(2016年 北京市密雲)

■ 2019年「武漢市長江新城さくら植樹」

武漢市東北部に位置する長江新城は、新たな産業発展モデル地区として、長江・東湖等の水に恵まれた自然環境を活かす「エコ&グリーン都市」を目指したまちづくりが進められているエリアです。この植樹は、地域の皆さまとともに環境保全の大切さについて改めて考えるとともに、長く親しまれる桜の名所となることを願い実施するものです。2019年4月20日、日中両国のボランティア300名の皆さまとともに、100本の桜を植樹しました。本植樹は外務省「日中青少年交流推進年」の記念行事にも認定されています。



(2019年 武漢市桜植樹)

《日中環境国際シンポジウム》

地球環境の保全が世代と国境を超えた課題であることをふまえ、日中のさらなる国際協力を促進するため、1993年から4回にわたり「日中環境国際シンポジウム」を開催しています。

第1回(1993年): テーマ「環境問題と人間社会」

「地球の未来を守るために」という共通視点のもと国際協力を促進するため、全体会議および分科会において活発な討論が行われました。海部俊樹元首相が出席されたこの回では、民間レベルにおける環境協力についての大枠指針がまとめられるとともに、シンポジウムの継続的な開催が合意されました。



(第1回 日中環境国際シンポジウム)

第2回（1995年）：テーマ「環境問題と人間社会」

撫順市での事前実地調査を討論資料とし、特に大気汚染対策に絞って両国の環境協力推進を合意しました。また、廣中和歌子元環境庁長官が出席され、都市の経済発展に伴う環境問題や環境保全の技術、環境法などについて討議が交わされました。

本シンポジウム内で、環境保全の必要性と重要性を世界に向けて発信するため、「万里の長城・森の再生プロジェクト」が提案されました。

第3回（1997年）：テーマ「環境問題と人間社会」

海部俊樹元首相のご出席のもと、経済社会の持続的発展に向けて、エネルギー対策と環境保全、水資源及び水環境の確保、経済、社会および環境が調和する発展戦略について議論されました。また、本シンポジウムを契機に「万里の長城・森の再生プロジェクト」の準備が始まりました。



(第3回 日中環境国際シンポジウム)

第4回（2015年）：テーマ「国際社会における環境改善と社会の持続的発展」

グローバルに活躍する両国の専門家・有識者が一堂に会し、環境改善と社会の持続的発展についての討議が交わされました。また、本シンポジウムの総括として、世界に向けて「イオン北京環境提議」を発信しました。



(第4回 日中環境国際シンポジウム)

「イオン北京環境提議」

2016年から、下記に取り組むことを表明

1. 新たな植樹活動の取組みを通じた日中ボランティアの交流
2. 日中青少年環境教育活動を協同で取組み環境保全に関する交流の促進

《環境教育》

■太陽光発電システム寄贈

設立20周年の記念事業として、2009年より国内外の小中学校へ再生可能エネルギー活用の啓発・普及と環境教育を目的に、太陽光発電システムを寄贈してきました。中国では、2016年・2017年に武漢市の小中学校10校に寄贈、2018年から2024年にかけて香港の10校に寄贈しています。



2024年贈呈式

武漢市（2016年・2017年）



(2016年 武漢市光谷第九小学)



(2017年贈呈式)

香港特別行政区（2018年～2024年）



（2019年 東華三院姚達之記念小学）



（2024年 黃埔宣道小學）

■アジア学生交流環境フォーラム

当財団は2012年より、国連生物多様性の10年のスタート年を契機として、グローバルな視野で活躍する環境分野の人材育成を目的に、アジアの大学生を対象に「アジア学生交流環境フォーラム (Asian Students Environment Platform: ASEP)」を実施。

中国では2014年に開催し、清華大学（中国）、早稲田大学（日本）、高麗大学校（韓国）、マラヤ大学（マレーシア）、ベトナム国家大学ハノイ校（ベトナム）の5カ国80名が参加しました。同年の教育プログラムは開催国の幹事校である清華大学監修、早稲田大学協力のもと、「水と人」をテーマに、北京、天津、内モンゴル、成都でフィールドワークを実施し、生物多様性について考察を深めました。



（2014年 中国開催ASEP）

《北京市人民政府からの表彰》

当財団の名誉理事長 岡田卓也は、2009年、長年にわたる北京市の社会発展に貢献したことが評価され、北京市より「北京市榮譽市民」を受賞しました。

「北京市榮譽市民」は、北京市に貢献した外国人に与えられる最高位の称号で、これまでに世界で32名が受賞しています。日本人の受賞者としては3人目です。北京市で行われた授賞式で、郭金龍北京市長（当時）より「北京市榮譽市民」の称号が授与されました。



（「北京市榮譽市民」の称号を受賞）

《武漢市人民政府からの表彰》

名誉理事長 岡田卓也は2015年、武漢市国際諮詢顧問団として武漢市の発展に貢献していることが認められ、武漢市人民政府から「黃鶴友誼賞」を受賞しました。